

ナックトゥデイ

新使徒教会国際本部発行

信じる、成長する、到達する（2026年5月1日）

救いには名があり、道には目標があり、力は神様から来ます。五月の礼拝は、信仰生活のまさに中心へと導いてくれます。

救いには名がある

「イエス」——その名がすべてを語っています。もともとのヘブライ語の形は文字どおり「神は助けくださる」あるいは「神は救ってくださる」という意味です。このこと、さらに、使徒ペトロとヨハネはサンヘドリン〔最高法院〕の前で「この人による以外に救いはありません」と証ししています(使徒4:12)。

この排他的主張は、キリストご自身に由来しています。「私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」(ヨハ14:6)。これは、救いが何から成り立っているかが示されています。つまり、救いは完全な解放、霊的な刷新、神様との永遠の交わりで成り立っているのです。

これが日常生活にどういう意味を持つかということ、五月第一主日礼拝で考察します。

前を見据えて、前進する

これは、地図を頼りに決められたポイントを探しながらゴールを目指して進む、オリエンテーリング競技のようなものです。後ろを振り返る人には転ぶ危険があります。そして、道ばたにとどまっていれば、決してゴールにたどり着くことはありません。使徒パウロはこの信仰という競技についてこう述べています。「…後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ」(フィリ3:13-14)。

信仰において成長したいならば、イエス様に適う人生を毎日継続して送らなければいけません。というのも、キリストに似たものになること目指して、生涯にわたって歩み続けるからです。これが五月第二主日礼拝の内容です。

足跡に従って

「父のもとから出て、父のもとに行く。」このようにイエス・キリストは、ご自身の歩みをヨハネによる福音書16章28節で語っておられます。そして、2026年5月14日の昇天日記念礼拝は、そこに見られるいくつかの対応関係を強調しています。

「私たちは神の子であり、キリストに仕え、キリストを証しするために世に遣わされています」という方向付けをしたうえで「私たちはキリストに倣(なら)い、断固として悪を退けます。」そして最後に「キリストの助けによって、私たちは歩み続け、目標に到達します。」

続ける強さ

人生を送り、競争し、その歩む道を見つけることは、力と気力を消耗します。しかしイエス様はと「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」約束されました(使徒1:8)。この「力」は何のためにあるのでしょうか。これが、五月第三主日礼拝の焦点です。

聖霊の力は、恐怖と失望のあまり部屋に閉じこもっていた弟子たちを、確信と希望を広める熱意に満ちた宣教者へと変えるのです。

共に働くことで、はじめて目標へ

聖霊はまた、教会を築き上げる力でもあります。「一つの霊によって一つの体となるために洗礼(バプテスマ)を受け」(一コリ12:13)。このことを、2026年5月24日の聖霊降臨祭〔ペンテコステ〕記念礼拝を通して思い起こします。

ここでは、キリストの教会を一つの体にたとえています。賜物も務めもそれぞれ異なります。しかし、教会に属す人は、誰も欠かすことができません。そして、すべての人が共に働くことで、はじめて目標に到達できるのです。

お一人の神が、三位一体で近く

五旬祭〔ペンテコステ〕において、最終的に神様は三位一体のご自身を、この世に現されました。すなわち、御父なる神様を信じることによって創造主を悟り、御子

なる神様を信じることによって神様の擬人化が中心となり、聖霊なる神様を信じる
ことによって、人類が根本から新しくされ、そして新しい被造物が古いものにとっ
て代わることが確約されるのです。

第五主日礼拝では、この三位一体の祝福を洞察します。

Andreas Rother (翻訳：日本新使徒教会)

nac.today: New Apostolic Church International

新使徒教会国際本部発行

日本語訳発行 〒206-0014東京都多摩市乞田1320 日本新使徒教会